高等学校古典における主体的･対話的で深い学びの実現を目指して

学籍番号　229311
氏　　名　和田　　光司
主指導教員　小路口　真理美
副指導教員　堀　　淳一

１.背景

高等学校学習指導要領（平成30年告示）において、高等学校国語科は、科目の再編成を始め、大幅な改訂が行われ、資質・能力の育成が求められるようになった。授業者にとって、生徒が古典を正しく訳出できるようにすることも簡単ではない。現行の学習指導要領では、正しく訳出したうえで、他者や先人のものの見方、感じ方、考え方を知り、自身の思いや考えを広げたり深めたりすることが求められている。そして学習指導要領改訂の基本方針として、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が要請されている。今後どのような古典教育を行っていくべきなのか、筆者の授業者としての困惑は大きい。

筆者は学部時代、古典の作品や文章を解釈するとき、作者の他の作品や、作者が参考したであろう文章や和歌、後世における写本や注釈書などを調べ、作者の考えや表現の意図を捉えようとしながら解釈を進めていた。そうすることで、作品や文章に対する解釈が深まり、古典へ更に興味・関心を持ち、自身のものの見方や考え方を深めることにも繋がったと感じている。高校学校古典においても、複数のテキストを読み比べる活動を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるのではないかと考えた。

本研究では、高等学校古典における主体的・対話的で深い学びを実現するための、テキストを読み比べる活動を取り入れた授業の開発を行うことを目的とした。

２．基本学校実習の概要

基本学校実習Ⅰおいては、授業観察を通して、実習校の先生方から授業づくりや授業を進めていく上で必要な知識を学んだ。生徒が学習活動に取り組む様子を、単元を通して観察し、生徒の学習の実態を知ることができた。また、国語科において学習指導要領の改訂により、古典を扱う時間が減少しているという現状に対して、現場の教員が困惑しているという現状を知った。

基本学校実習Ⅱにおいては、高校３年生の現代文Ｂにて評論文の授業を行った。生徒が授業や文章に興味・関心を持たせるための工夫し、積極的にペアワークやグループワークを行ったが、結果として教材研究で得た授業者自らの教材に対する読みの理解を押し付ける授業になってしまった。生徒が真に主体的に思考・判断・表現し、対話によって自分の思いや考えを広げたり深めたりする授業にするための教材研究や指導の工夫が必要であった。

３．発展課題実習Ⅰにおける研究の概要

発展課題実習Ⅰでは、『徒然草』「丹波に出雲といふ所あり」と『徒然草』「仁和寺の法師」を読み比べる活動を取り入れた実践を行った。同一作品内の異なる章段を読み比べることで、章段同士の共通点を捉え、登場人物の言動の違いを分析し、考えを出し合うことで、解釈を深め、兼好法師のものの見方・考え方を捉えていくこと繋がった。

また、二つの章段を通して、知らないことやわからないことに今後どう向き合っていくかを考える活動では、読み比べる前に行った「丹波に出雲といふ所あり」に教訓を付ける活動と比較して、生徒の記述の内容に考えの広がりや深まりが見られた。

４．発展課題実習Ⅱにおける研究の概要

発展課題実習Ⅱでは、『伊勢物語』「芥川」と『今昔物語集』「在原業平中将女被噉鬼語」を読み比べる活動を取り入れた実践を行った。『今昔物語集』「在原業平中将女被噉鬼語」は『伊勢物語』「芥川」を原拠として書かれた文章である。異なる時代に成立した二つの作品を読み比べることで、作品同士の相違点からそれぞれの作品の特徴を捉え、新たな観点で『伊勢物語』「芥川」の内容を捉え直し、解釈を深めることができた。

しかし、解釈を深めたうえで生徒が取り組む活動に対する準備不足や、授業者である筆者のファシリテーターとしての技術不足によって、授業者の理解を生徒に押し付ける授業になってしまった。

５．まとめと今後の展望

読み比べることによって、テキスト同士の共通点・相違点から、テキストそれぞれの特徴を捉えやすくなり、テキストを評価する新たな観点を持つことができた。新たな観点をもとにテキストを捉え直し、自身の読みの変容を感じながら、ものの見方・考え方を広げたり深めたりすることは、生徒が古典学習に主体的に取り組むことに繋がったと考える。

また、古典学習において、生徒は古典に関する知識が少ない状態でテキストを読むことになる。自信を持って古典に対して自分の考えを持つことができる生徒は多くない。読み比べることによって共通点や相違点からテキストを捉え直し、生徒が自身の読みを根拠に考えを形成することができたことは、生徒が他の生徒との対話に臨みやすくなることに繋がったと考える。

今後の課題として、生徒が取り組む価値を感じる問いの検討や、読み比べる授業を踏まえたテスト問題の作成や評価についての検討、新たな読み比べの授業の開発・実践を通して、古典学習におけるテキストを読み比べる活動の可能性を探究していく。